

# 浜町から 風の便り 53

2023/3/1. 船橋市浜町 辻 秀幸

## コオロギは人類を救う (昆虫綱・バッタ目)

コオロギが近頃注目されている。日本の一部ではハチの子などを食べる習慣があるが、ほかの国には昆虫を常食している人々がいる。イナゴの佃煮を食べたことがあるが、この年齢になってからイモムシを出されても食欲は湧かない。生まれて以来食べ物として認識していないからです。コオロギを食料にしようという企業は、粉にすることで、かなり美味だそうなので黙って出されれば気がつかずに胃袋に納めるでしょう。そういった昆虫食のニュースの記事によると50㍻四方の箱に1000匹を育てているという。動物愛護団体から動物虐待だとクレームが出そうな気がしますがいかかなものでしょうか。放し飼い飼育のブランド・コオロギが高値で出回るようになりそうです。(参照：第35号)

鳴き声を楽しむ虫をてんびん棒で担いで売り歩く姿を見た記憶がかすかにある。

浜町公園ではオンバッタを見かけるだけ。道端の叢で虫が鳴く。捕まえてみたいとは思うけれど探す元気はない。コオロギの方から3階の部屋を訪ねてきた。コオロギやキリギリスの耳は足にある、ということ思い出して撮影に挑戦。

## タンボコオロギ (コオロギ科) メス キリギリス亜目

2022/9/14. 船橋・浜町1. マンション3F 室内



耳  
⇨



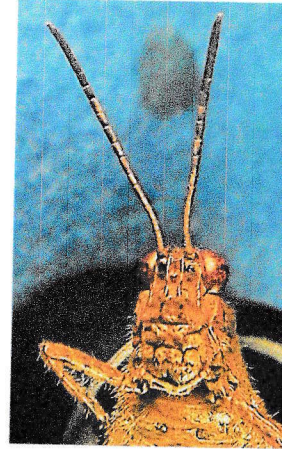
「耳」というのは文字通り音を聞く器官。一番前の足にある。

足に耳があるのはキリギリス亜目で、スズムシ、マツムシなど鳴き声がよく知られた名前がならぶ。タンボコオロギは「ジャッ・ジャッ・ジャッ」と鳴きます。子どもの頃、ナニの大きさを教えてもらったケラ (おけら) もバッタに近い仲間 (キリギリス亜目コオロギ上科ケラ科)、足に耳があります。と本で学んだ。

バッタの仲間 (バッタ亜目: トノサマバッタ、コバネイナゴなど) の耳は腹部にある、というので今後の撮影課題。まだまだカメラを手放せない。

そのバッタ亜目も写していた。耳のことは忘れて写していたので顔だけで御免蒙ります。

## バッタ亜目 イボバッタ (バッタ科)



2019/8/2.  
船橋・浜町1.  
「浜町公園」

バッタの仲間は鳴かないが、後ろ脚をこすって音を出すものがある。

## オンバッタ (オンバッタ科)

⇨ オス褐色型 2017/6/23.  
船橋・浜町1. 「浜町公園」  
⇩ メス 2019/8/30.  
船橋・浜町1. 「浜町公園」



## ツチイナゴ (バッタ科)

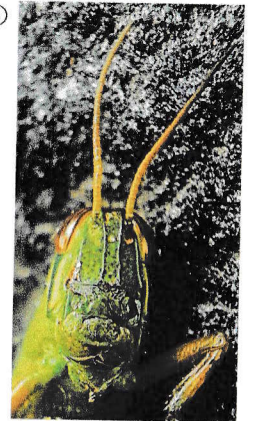


2017/10/9.  
船橋・飯山満2.  
「千葉病院」入口脇

草色なのがイナゴで、土色がバッタと覺えたが、そういうことではないようだ。

## コバネイナゴ (バッタ科)

2016/9/20.  
船橋・浜町2.  
「ららぽーとTOKYO-BAY」前植え込み



昆虫食が世界の食料難を解消するようだ、というのは結構なこととして、衛生面、栄養面に見落としはないか。飼育の際、すし詰め環境をさらって暴動が起こしたらどうするか。牛のげっ歯が地球温暖化に少なからず影響しているというがコオロギがしゃっくりしたりおならしたらどうなのか。

原発の便利さ有利さについてはよく聞かされたが、停電で原子炉が破壊するなんて知らなかった。廃棄物の処理について解決しないままであることも知らなかった。中途半端のまま突っ走った結果の代償はばかにかかった。

コオロギが変異して巨大化する、集団脱走して植物を食い尽くして人間に襲いかかってくる、なんてことは映画でぞっとするだけで勘弁してください。